

令和 7 年度（2025 年度）日本肺高血圧・肺循環学会 第 2 回理事会 議事録

日時：2025 年 6 月 13 日（金）16:00-18:00

場所：京王プラザホテル 本館 42F 高尾／Web 開催

出席理事：福本義弘、桑名正隆、山岸敬幸、石田敬一、江本憲昭、片岡雅晴、小垣滋豊、近藤康博、
鈴木拓児、高月晋一、田中住明、田村雄一、辻野一三、中岡良和、村田光繁、安岡秀剛
（計 16 名）

第 10 回学術集会会長：田邊信宏

出席監事：瀧原圭子

委任状による出席理事：室原豊明、芳川豊史（計 2 名）

欠席理事：大郷剛、安田聡（計 2 名）

（敬称略）

事前配布資料

資料 1：前回理事会議事録（理事会用）

資料 2：2024 年度日本肺高血圧・肺循環学会_会計報告

資料 3：第 10 回学術集会準備状況

資料 4：第 11 回学術集会準備状況、EASOPH 報告

資料 5：第 12 回学術集会準備状況

資料 6：メディカルノートとの連携に関する謝金、協定案

資料 7：学術集会大会長リスト、役員リスト

資料 8：Jamieson CTEPH award 申し合わせ

資料 9：新評議員候補者リスト、会則変更案

資料 10：顧問弁護士案

資料 11：学術集会時の託児所について

資料 12：PH 学会コメディカル向けオープンチャット開設のお知らせ

資料 13：PH48 の会_入会フォーム案、authorship 規約案

資料 14：不採算薬剤に関する要望

1. 開会

議事録署名人として会則通り、議長（福本理事長）及び瀧原圭子監事が指名された。

2. 前回議事録の確認（資料 1）

2025 年 4 月 22 日開催 2025 年度第 1 回理事会議事録を確認した。

3. 報告事項

①会計報告について（資料 2）

2024 年度会計報告（2024 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日）

・収入・支出項目および金額を確認した。

- ・ 税理士及び監事の監査が終了し、2024 年度より支出の部 h.のとおり、準備金を設定することとなったため、次期繰越金が以前より大幅に減少している。
- ・ 学会奨励賞や留学支援、MSD 医学教育研究助成など、日常の学会運営費とはあまり関係しない項目を省いた学会運営費の単年度収支が参考資料として提示された。八巻賞は当初より別に管理され、ガイダンス作成料も 2024 年度のための会計のため、単年度収支から省いていた。単年度で 200 万円程繰越がでていることを確認した。
- ・ 事務局の業務が増加しているため、今年度(4 月)から、月 2 万円増額の提案があり承認された。

収入の部		支出の部	
a. 年会費	5,809,000	a. 事務局経費	3,359,412
b. 前年度繰越金	59,529,010	学会賞選考費用	450,000
(故八巻重雄先生ご寄付残額4,000,000円を含む)		運営費	910,000
		(事務局運営費)	
		(税理士報酬)	198,000
		(旅費)	183,840
c. パナー広告	110,000	レタープレス (メール配付・HP修正・会員新聞・理事会事務費)	1,398,001
d. 転載許諾料	770,000	(会費)	27,960
e. 学会奨励賞寄附金	4,300,000	通信費	37,446
f. 留学支援寄附金	3,000,000	消耗品費	74,690
g. MSD医学教育研究助成金	6,000,000	雑費	79,475
h. 第9回学術集会余剰金	1,180,765	(事務局消耗品・八巻賞トロフィー代)	
i. 利息	28,097	(贈込手数料・厚労省収税)	
		b. 八巻賞	500,000
		c. Jamieson CTEPH award	300,000
		d. ガイダンス作成料	3,130,600
		e. 学会奨励賞運営費	4,300,000
		f. 第10回学術集会運営費	2,000,000
		g. 小計	13,590,012
		h. 八巻賞準備金	3,500,000
		学術集会及び学会奨励賞準備金	25,000,000
		留学支援・医学教育研究準備金	9,000,000
		i. 次年度繰越金	29,636,860
計	80,726,872	計	80,726,872

②第 10 回学術集会準備状況 (田邊信宏会長・資料 3)

2025 年 6 月 14 日 (土) ~15 日 (日)

会 長 : 田邊 信宏

(千葉県済生会習志野病院 肺高血圧症センター/患者支援センター)

千葉大学大学院 医学研究院呼吸器内科学)

副会長 : 田村 雄一

(国際医療福祉大学 医学部循環器内科学)

国際医療福祉大学三田病院 肺高血圧症センター)

川口 鎮司 (東京女子医科大学 医学部内科学講座膠原病リウマチ内科学分野)

長岡鉄太郎 (順天堂大学大学院 医学研究科呼吸器内科学)

高月 晋一 (東邦大学医療センター大森病院 小児科)

石田 敬一 (国際医療福祉大学医学部 心臓血管外科)

会 場 : 京王プラザホテル

事務局：千葉大学大学院医学研究院 呼吸器内科学

事務局長：須田 理香

(千葉県済生会習志野病院 肺高血圧症センター

千葉大学大学院 医学研究院呼吸器内科学)

- ・ 一般演題 160 題、730 名以上名参加予定。充実したプログラムとなった。

③第 11 回学術集会準備状況 (小垣滋豊会長・資料 4)

2026 年 5 月 30 日 (土) ～31 日 (日)

会 長：小垣 滋豊 (大阪急性期・総合医療センター 小児科・新生児科)

副会長：大郷 剛 (国立循環器病研究センター 心臓血管内科部門 肺循環科)

武内 徹 (大阪医科薬科大学 リウマチ膠原病内科)

中岡 良和 (国立循環器病研究センター研究所 血管生理学部)

西山 理 (近畿大学医学部呼吸器・アレルギー内科部門)

アドバイザー：瀧原 圭子 (大阪大学名誉教授)

会 場：神戸国際会議場

・事務局長：石田 秀和 (大阪大学大学院医学系研究科 小児科学)

- ・ 5 月 29 日に理事会開催予定。
- ・ 6th EASOPH が同時開催 (2026 年 5 月 30 日)。
- ・ 副会長・アドバイザーと協力して準備を進めている。

④第 12 回学術集会準備状況 (田村雄一会長・資料 5)

2027 年 7 月 10 日 (土) ～11 日 (日)

会 長：田村 雄一

(国際医療福祉大学医学部 循環器内科学

国際医療福祉大学三田病院 肺高血圧症センター)

会 場：京都テルサ

- ・ 日時、会場が決定した。
- ・ テーマ「縁から生まれるイノベーション」も決定した。

⑤第 13 回学術集会準備状況 (安岡秀剛会長)

2028 年 5 月～7 月を予定

会 長：安岡 秀剛 (藤田医科大学医学部 リウマチ・膠原病内科)

会 場：名古屋近辺で検討中 (名古屋国際会議場など)

⑥MSD 医学教育助成進行状況

- ・ 2025 年 1 月 1 日～2026 年 12 月 31 日の 2 年間で 1,200 万円の助成を受ける。
- ・ JAPHR「早期診断・治療の最適化を標準化する肺高血圧症教育プログラム：PH University」も同助成に 1,200 万円で採択され E-learning コンテンツを開発するため、相談して進めている。
- ・ 全 30 本程度の講義形式の座学及び症例の動画の制作を検討している。ビデオを作成し HP に掲載、全国の学会員の先生方を対象に勉強して頂く予定、受講証の発行も検討している。

- ・ 講義について、依頼メールを送信、承諾の回答を頂いた方には依頼状を送付した。7 月末日を動画提出締め切りとしている。

⑦メディカルノートとの連携協定について（資料 6）

- ・ 連携協定ウェビナーの協定枠について確認した。
 - ・ 学会の協定枠：メディカルノートの規定に基づき、メディカルノートから謝礼を支払う（学会は介入しない）。
 - ・ 企業枠：企業で演者を選定、企業の既定の範囲で企業から演者に謝礼を支払う。
- ・ 連携協定を締結することが承認された。

4. 審議事項

① 2029 年度第 14 回学術集会の会長について（資料 7）

- ・ 領域別では循環器（小児循環器）の年になる。
- ・ 次回継続検討とする。

②Jamieson CTEPH award の 2026 年度以降の継続について（資料 8）

- ・ Jamieson CTEPH award は 2025 年度まで継続予定としている。
- ・ 2026 年度以降について検討した結果、2030 年度まで継続することが承認された。

③評議員について（資料 9）

1) 新評議員候補者

- ・ 新規評議員候補者の審議が行われ、以下の新評議員が承認された。
 - (1) 細川 和也 先生（九州大学 先端医療オープンイノベーションセンター）
推薦者 福本 義弘 理事長
 - (2) 菊池 華子 先生（杏林大学 循環器内科）
推薦者 田村 雄一 理事
 - (3) 須田 理香 先生（済生会習志野病院 肺高血圧症センター）
推薦者 田村 雄一 理事

2) 会則について

- ・ 以下の改訂案が承認された。
 - ・ 功労会員・名誉会員を第 15 条から第 5 条に移す（役員ではないため）。
 - ・ 評議員を第 15 条から第 13 条に移す（役員ではないため）。
 - ・ 評議員は 50 名程度（第 15 条）とあるが、現在 80 名、今回の申請 3 名を含めると 83 名のため再任の条件等再検討した。学会設立当初会員数 334 名で 50 名の評議員がおり、会員数の約 15%であった。会員数は増加傾向にあるため、評議員数も設立当初のパーセンテージである、おおよそ 15%程度を最大数とする。
 - ・ 評議員の定年が明記されていなかったため、役員同様に選任の年の事業年度の開始日において 65 歳以下とする。
 - ・ 評議員の任期は 2 年とするが、任期途中に選任された評議員の任期は、任期更新前年度の末日までとする（今回は 2026 年 3 月 31 日までとし、2026 年度から 2 年で再任され

る)。

- ・ 評議員の 2 度目の再任以降には条件を付すことも意見として出された。年会費の未納があり、なおかつ任期中に評議員会に 1 度も参加しなかった場合は再任しないこと、とし、再度審議することとなった。
 - ・ 理事長・理事も同様に条件を付す（ただし会費未納があり、なおかつ任期中に理事会に 1 度も参加しなかった場合は再任しない）。
 - ・ 役員の定年の役職を明確にする（役員（理事長、理事）は選任の年の事業年度の開始日において 65 歳以下でなくてはならない）。
- 第 6 条 入会について審議し、理事会の承認から、理事長の承認とすることが承認された（理事長に提出し、承認を得なければならない）。

④顧問弁護士契約について（資料 10）

- ・ iCraft 法律事務所 内田誠氏の顧問弁護士契約について審議し、今後、法律的な面で分からない点が出てきた際に相談できるよう、月額 35,000 円のプランで契約することとなった。

⑤学術集会時の託児所について（資料 11）

- ・ 託児所の選定から当日運営まで：学術集会運営事務局（大会校）にて実施することとした。
 - ・ 申込がない場合を鑑み、キャンセル料がかからない日程で締切を設定する。
 - ・ 自己負担有り（参加者 1 名につき 2,000 円程度/学術集会）とする。
- ・ 託児所の費用負担は学会事務局とする。
- ・ 第 11 回学術集会より適用する。

⑥学術集会における国際英語セッションについて

- ・ 小垣理事より東アジア全体を視野に入れたプログラム構成を検討中の旨、説明があった。
- ・ 招聘にかかる負担面等の課題を踏まえて、今後マニュアルを作成していく。
- ・ EASOPH 本部から支援はなく、経費の面で苦しい。学会が補填するが、助成金獲得やランチョンセミナー等、積極的に資金を集める必要がある。
- ・ EASOPH は学会主催とすることを確認した(主催者は理事長、運営事務局は担当の先生)。

⑦ダイバーシティ委員会及び保険委員会の立ち上げについて

- ・ PH-48 の会より、ダイバーシティ委員会の立ち上げの要望があった。委員の選任等、詳細については PH-48 の会に一任することとなった。
- ・ 田村理事より新薬開発や新規治験、オーファン指定、適用拡大等の種々の保険的な事項を扱う、多領域の分野の委員で構成される保険委員会の必要性について説明があり立ち上げについて提案がなされ、審議し、承認された。今後、委員の選任を行う。

⑧新規治験について

- ・ ノイファルマ社より田村理事に新規治験に関する要望があった。早期開発・承認の要望を学会とし

て出してほしいとの依頼であるが、利益相反も関わってくるため、継続して審議することとなった。弁護士や有識者の意見も伺うことにした。

⑨会費未納者への対応について

- ・ 2025 年 6 月 4 日時点で未納者 195 名(約 25%、うち 55%は 2 年以下)であったため、督促メールを送信した。
- ・ 未納のルール、会則の改訂を検討していく。
- ・ 会費の支払い方法を検討し、コンビニ決済を追加することが承認された。会費支払い方法については今後も継続審議とする。

5. その他

①メディカル WG LINE オープンチャット開設の報告（資料 12）

- ・ メディカル WG より、コメディカル向け LINE オープンチャットを開設した旨報告があった。

②PH-48 の会の入会公募開始・若手研究規則・SNS について（資料 13）

- ・ PH-48 の会より、入会申請フォーム案ならびに authorship 規約案が提出され、承認された。学会会期中より入会申請を始めることとなった。

③不採算薬剤について（資料 14）

- ・ 持田製薬社より、トレプロスト注射液、トレプロスト吸入液が不採算医薬品となったため、学会として 2026 年度の不採算品再算定申請をしてほしい旨の依頼があった。
- ・ 持田製薬社が既に厚労省との協議を開始しているため、厚労省から意見を求められるまでは静観しておくべきではないか、や、文書を出すことによって特に問題となるようなことはないのではないか、逆に厚労省は学会の意見を重視する傾向がある、などの意見があった。
- ・ 要望書案について、出す場合は原薬価格に関する内容は学会として事実確認が難しいため、臨床上の問題のみを伝える方向でどうかという意見もあった。
- ・ 弁護士や有識者に確認することとなった。

6. 閉会

以上

追記）小垣理事より Right Heart Journal の第 1 号の論文募集が始まっている旨お知らせがあり、日本からの投稿について依頼があった。

日本肺高血圧・肺循環学会

理事長

福本義弘

議事署名人（監事）

龍原圭子